

第7回 NIE帯広・十勝セミナー実践発表

社会に目を向け、主体的に考える力を養う生徒の育成

平成21年2月14日(土)

池田町立高島中学校 駒澤 嗣夫

本校は、全校生徒11名の小規模校であり、現在1・2年生は複式学級として活動を行っている。本校においては、毎年、壁新聞製作を行っており、取材などの活動からそれなりの成果をあげている。毎日、新聞を読む生徒が少ないため、今年度は新聞に接する機会を設け、新聞を読む楽しさを持たせていきたいと考えた。まず、今年度の活動として、1・2年生の学級の取り組みの一つとして、NIE教育推進の立場から、新聞を活用した活動を行っている。日常生活より新聞に接する機会を増やし、そこから得る情報から様々な考えを持たせていきたいと考えている。

1 新聞に親しむ(朝の会での新聞記事紹介)

毎朝、日直が最近の新聞記事を紹介し、その記事についての感想を言う。3学期からは投稿欄についても紹介することにした。また、紹介された記事については、その記事に対するコメントやその記事がおかれた社会背景を書き、学級掲示板に掲示している。

○最近紹介された記事

- ・ガソリン10円値上げ
- ・天皇誕生日の会見取りやめ
- ・アイスワインの葡萄収穫
- ・乳価値上げ合意
- ・レジ袋辞退率35%
- ・中国製菓子からメラミン
- ・アクセルとブレーキの間違いによる事故

【成果と課題について】

今まで新聞を読む機会がなかった生徒にとっては、8日に1回まわってくる新聞記事紹介は新聞に接する大事な機会になってきている。地域の記事、社会・経済面、事件の記事など、内容によっては難しいものもあるが、その都度、説明を加えることにより、様々なニュースに興味をもってきている。楽しいニュースや面白いニュースが出てきたときは、学校へ新聞を持ってきて、休み時間に読んでいる光景が見られた。

課題としては、今後において生徒自ら自主的に新聞を読む習慣をつけさせ、新聞から得る情報から自分の意見や考えを深めていきたいと考えている。

2 新聞を作る(壁新聞作成)

総合的な時間の「情報」(30時間)を使用し、8月下旬から10月初旬にかけて壁新聞を作成している。作成人数は1・2年の8名全員で、係分担を決めて作成した。

○今年度の壁新聞の取り組み

題字は池田町にちなんだものにする。→「葡萄」に決定

当初、1面を温暖化の記事にし、下の6つのテーマで作成していく方向で進めていく。

- ① 温暖化（他校にアンケート依頼）
- ② 池田町の牛乳について（酪農家へ取材に行く）
- ③ マイマイガ
- ④ ぶどう狩り（行事の感想）
- ⑤ 池田町の電気（北海道電力帯広支店へ取材）
- ⑥ 学校の統廃合（生徒へのアンケート）

その後、題字との関連性をもたせるため、1面記事を「ぶどう狩り」から「十勝ワインの歴史、今後の期待など」記事に変更する。（十勝ワイン研究所に取材に行く）

何度か企画会議で話し合った結果、6つのテーマの題材が具体的に決まる。

- ① ぶどう狩り→ 十勝ワインに寄せる期待（十勝ワインの歴史から今後に寄せる期待）
- ② 池田町の牛乳について→ 酪農家の現実（苦労と努力）について語る
- ③ 学校の統廃合 → 学校の統合に対する生徒の反応について
- ④ 温暖化→ 地球の温暖化による被害をどのように感じているか
- ⑤ 池田町の電気 → 池田町の電気の歴史や料金の変遷について
- ⑥ マイマイガ → 今年大発生したマイマイガに実態に迫る

できるだけ、多くの取材をし、そこから得られる生きた情報から新聞製作を行うようにした。

また、取材をすることにより、普段、学校で得られないマナーなどを身につけることができたと同時に、社会事情に関心を持ちようになった。新聞製作におけるレタリング、割り付け、校正などを、各自が問題意識を持ちながら取り組むようになった。

【成果と課題について】

成果としては、全員で壁新聞を作成することにより、自主性、責任感、想像力、文章力や協調性などの教育効果があった。毎年、作成しているので、先輩方からいろいろなアドバイスをもらうなど、様々な形でよりよいものを作ろうとする意識が芽生えてきていた。

課題としては、短い日数で仕上げていくので、1週間に学習する5教科の時間が少ないことがあげられ、短期間で能率よく仕上げる工夫があげられる。

3 新聞を活用（新聞から学ぶ）

○今年度の活動から

- (1) 様々な新聞について知る。(50分)



① 新聞から得られる情報について考えていく。(10分)

- ・社会情勢、地域の話題、スポーツ、テレビ番組、お悔やみ

② 生徒が知っている新聞名を答えていく。(10分)

- ・北海道、朝日、毎日、読売、十勝毎日、釧路、北見、スポニチなど

③ 5社(朝日、毎日、北海道、十勝毎日、日本経済)の新聞を読み、それぞれの新聞を読んで感じたことをワークシートに記入する。(20分)

- ・一面記事の内容が新聞によって異なっている。各新聞は読者を注目させるような見出しを工夫している。
- ・Nはカラーページが少ない。Tは新聞記事が読みやすい。
- ・Hは見出しが大きくて見やすい。Tは地域のことが多く書いてあり、興味をもつ
- ・Tは文字が大きくて読みやすい。Nは経済のことばかりで難しい。
- ・Mはグラフなどがないので、読みにくい。Aは写真が多く、読みたくなる。
- ・Aは縦に書いてあるのに、横に書いてあったりして読みにくい。
- ・地元紙はカラーも使っており、区切りもわかりやすい。
- ・M, A, Nは字がびっしり書いてあり、読みにくい。
- ・地元紙はテレビ欄が見やすい。Tは普段から読みなれているので、読みやすい。

④ 一面記事に興味を持つ記事はどのようなものですか。(5分)

- ・ほとんどの生徒が地域の記事と答えていた。

⑤まとめ(5分)

新聞の必要性について確認する。

5社の新聞の違いについて話しています。



(2) 新聞から考えてみる。(50分)

①クラスのほとんどの生徒は、日本ハムファンということから、スポーツ欄の記事から読者の注意をひく見出しを考える。(北海道新聞を使用、資料1) (10分)

- ・2000人のファンに優勝宣言
- ・日ハム、那覇へ!!!
- ・今年の意気込みとは!?
- ・梨田ハム 日本一へ 打倒西武
- ・シーズンに向けて発信
- ・「日本一へ」さあ、レッツラゴー!!

②中高生の書いた4つの投稿欄を読み、自分の興味をもった投稿欄の要約と自分の意見や考えを書いていく。(北海道新聞を使用、資料2) (25分)

○走りながらもあいさつ

生徒の意見から

- ・私も知らない人に挨拶をするかどうか、とても迷ってしまい、結局しないで終わってしまいました。しかし、この話を聞いてから、これからはできるだけ、挨拶をしようと思いました。

「自分が正しいと思えば、それが誠実だ。」という言葉が一番心に残りました。

挨拶はとても大切だと思いました。

- ・私も走っているときに会う人に挨拶をしようかどうか、迷うときがあるので共感を得ました。つらくても挨拶をする人はまじめだとは思わない。でも、このような人は人間として、とてもよくできていると思います。この投稿欄を読んで自分なりに誠実に生きていくことを考えさせられた。

③意見交流 (10分)

ほとんどの生徒が同じ投稿欄を選んだこともあり、「あいさつ」についての大切さを話し合った。

④まとめ (5分)

【成果と課題について】

数社の新聞を読んで、生徒たちは各新聞の記事の取り扱いの違いについて理解すると同時に、各新聞社と放送局のつながりについても興味をもって学んでいた。新聞社によって、1面の記事が違うことから、2,3社の新聞を読む必要があることや地域の問題を今後、もっと知りたいという意見もあった。

新聞の投稿欄を読むことから、その中から自分たちの実体験にもとづいての意見交流をし、互いの考えを深めることができた。

今後の課題として、新聞記事を興味をもって読みこなし、社会の事象について自分の考えや意見を深めていければと考える。

また、文章を書くのが苦手な生徒もいるので、新聞を読む機会を増やし、文章能力を高めることが必要と考える。

(資料 1)

プロ野球きょうキャンブイン



選手ら80人沖縄入り

那覇空港に到着した日本ハムの選手たちは、ファンや報道陣ら約200人の出迎えを受け、1軍キャンプ地の名護市に先乗りしているダルモーンに臨んだ。梨田監督は「再びリーグ優勝を奪う選手、スタッフなど約80人。同空港でのセレモニーの後、各選手の宿舎に移動して約30分間の全体ミーティングを行い、キャンプに向けて気合をかし、ダルビッシュは、キャンプを27日までで、オ礼帰国に入る。2軍は国

那覇空港に到着した日本ハムの選手たちは、ファンや報道陣ら約200人の出迎えを受け、1軍キャンプ地の名護市に先乗りしているダルモーンに臨んだ。梨田監督は「再びリーグ優勝を奪う選手、スタッフなど約80人。同空港でのセレモニーの後、各選手の宿舎に移動して約30分間の全体ミーティングを行い、キャンプに向けて気合をかし、ダルビッシュは、キャンプを27日までで、オ礼帰国に入る。2軍は国

那覇空港に到着した日本ハムの選手たちは、ファンや報道陣ら約200人の出迎えを受け、1軍キャンプ地の名護市に先乗りしているダルモーンに臨んだ。梨田監督は「再びリーグ優勝を奪う選手、スタッフなど約80人。同空港でのセレモニーの後、各選手の宿舎に移動して約30分間の全体ミーティングを行い、キャンプに向けて気合をかし、ダルビッシュは、キャンプを27日までで、オ礼帰国に入る。2軍は国

戦う集団 前面に

梨田監督

1軍争いで活性化

中田、陽の奮起期待

那覇空港に到着した日本ハムの選手たちは、ファンや報道陣ら約200人の出迎えを受け、1軍キャンプ地の名護市に先乗りしているダルモーンに臨んだ。梨田監督は「再びリーグ優勝を奪う選手、スタッフなど約80人。同空港でのセレモニーの後、各選手の宿舎に移動して約30分間の全体ミーティングを行い、キャンプに向けて気合をかし、ダルビッシュは、キャンプを27日までで、オ礼帰国に入る。2軍は国

